

所属	看護学研究科 看護学専攻 修士課程 看護マネジメント学分野	修了年度	2019 年度
氏名	渡邊 雅哉	指導教員 (主査)	高橋 幸子

論文題目	中堅看護師の職業継続意思と職業キャリア成熟の関連
------	---------------------------------

本文概要

【目的】 新規採用後、同一部署で職業継続した現在 4 年目から 6 年目看護師（以下、中堅看護師とする）を対象にし、職業継続意思と職業キャリア成熟度との関連、及びそれらに影響を与える要因を明らかにする。そして看護専門職としての生涯を通じた職業の継続に必要な支援方法を導くための一助とすることを目的とする。

【方法】 関東地域 1 都 6 県の独立行政法人国立病院機構（6 施設）に勤務する中堅看護師 213 名を対象に、無記名自記式質問紙調査を実施した。調査内容は、基本属性のほか職業継続意思、職業キャリア成熟測定尺度、キャリア中期看護師の臨床実践力測定尺度 ver.3、The Practice Environment Scale of the Nursing Work Index (PES-NWI) 日本語版で構成した。分析には、Spearman の順位相関係数、t 検定（不等分散の場合には welch の検定）、二項ロジスティック回帰分析などを行った。

【結果】 中堅看護師の職業継続意思と職業キャリア成熟度は統計的に有意な正の相関 ($r=0.609$, $p<0.05$) があり、職業継続意思が強い者は、職業キャリア成熟尺度の得点もまた高かった ($p<0.05$)。職業継続意思が強い者は、臨床実践力測定尺度、PES-NWI の平均得点もまた高かった ($p<0.05$)。「職業継続意思の有無」(なし=1) を従属変数とした二項ロジスティック回帰分析を行なった結果、「仕事と私生活（家庭）の両立」(OR:0.029, $p<0.05$)、「自己のキャリアに関心を持つこと」(OR:0.662, $p<0.05$) が看護師としての職業継続意思を高めることに関連していることが明らかとなった。

【考察】 職業継続意思と職業キャリア成熟は相互の関連が強いと考えられ、職業継続意思を支援する上で、職業キャリア成熟を高めるための取り組みや働きかけが重要である。働き続ける意思がある者は、臨床実践力が高く、看護実践環境も優れているという結果より、これらを高めるための取り組みや組織作りによって、職業継続意思を高める可能性が示唆された。ゆえに、より良い看護を提供するために自己研鑽し、自らの知識や技術の向上に努め、臨床実践力を高めるための組織的な支援や、働きやすい看護実践環境の整備が重要であると考えた。生涯に渡る看護師としての職業継続意思を高めるためには、組織と個人がそれぞれ望ましい環境と働き方を追求し、中堅看護師が仕事と生活のより良い調和を通して、長く働き続けられるような職場環境作りの支援が必要であると考えられる。また、職場における役割モデルやメンターの存在が励みとなることで、自分自身のキャリアを積み重ねていくことへの関心が促され、職業継続意思を高めると考えられる。

【結論】 職業継続意思がある者は、職業キャリア成熟度も高い水準にあり、職業キャリア成熟を高めるための取り組みや働きかけは、看護専門職としての職業キャリア成熟を促すだけではなく、相乗的に職業継続意思を高める可能性が示唆された。また、高い臨床実践力を持つ中堅看護師の育成、看護職員の適切な人員配置を中心とした看護実践環境の整備を行うことで、中堅看護師の職業継続意思を高める可能性がある。生涯に渡る看護職としての働き続ける意思を高めるためには、仕事と家庭生活の両立が可能な職場環境を整備していくこと、職場における役割モデルやメンターの存在・役割を意図的に示し、看護専門職として自分自身のキャリアを積み重ねていくための関心を促すことが必要である。

【キーワード】 中堅看護師 職業継続意思 職業キャリア成熟度